

# 飼養管理を工夫・徹底し 分娩間隔337日、 子牛事故率1.6%を実現

DATA 事業規模

所在地：近畿地方

飼養頭数：200頭（繁殖牛）

従業員数：3名

和牛繁殖で重要なポイントは、①分娩間隔の短縮、②事故率の低減、③子牛の適正な発育の3点である。直近の生産者実態調査によると、1年1産を達成できていない和牛繁殖農家は59%にも及び、分娩間隔の短縮による生産性の向上が必要なのがわかる。今回は1年1産をクリアし、事故率の低減も実現している取り組みを紹介する。

で1080万円の減収となる。

## 1年1産を実現する 経済的メリット

（社）全国和牛登録協会によると、全国の平均分娩間隔は410日（13・5ヵ月）と、1年1産を達成できていない。1年1産の分娩間隔12ヵ月と全国平均の分娩間隔を比べると、10歳まで繁殖牛として供用した場合、0・9頭の産子数差となる。繁殖牛30頭規模の農家であれば27頭の差となり、子牛販売価格を40万円とすると1年間で108万円、10年間

この農場は16頭から増頭を続け、現在約200頭の和牛繁殖牛を保有する大規模繁殖農場である。繁殖牛の飼養頭数が多くなるほど発情を見逃す可能性も高くなるが、同農場は平成21年の平均分娩間隔が337日と1年1産を大きくクリアしている。

## 自然哺乳と追い乳を組み合わせ 母牛の分娩間隔を短縮

分娩間隔を短縮するには、繁殖牛の早期発情回帰と早期種付けが必要

となる。同農場では初乳を含め母牛からの乳の重要性を考慮し、\*クリップフィーディングを活用した自然哺乳を120日齢まで行う。

生後から60日齢までは、母牛からの乳だけに依存せず、牛用代用乳の追加給与を子牛の状態により給与量を調整しながら全頭給与する（いわゆる追い乳）。これにより子牛の初期増体の斉一化と母牛の発情回帰の早期化を実現している。

また60日齢から120日齢までは、母牛との接触を1日2回に制限することで子牛の人工乳の食い込みを上げる。さらに子牛の糞便確認も容易になり、疾病の早期発見につながっている。

子牛の事故率を抑えるために飼養管理スペースも十分確保してい

る。1牛房当たり4頭の育成牛を飼育し、1頭当たり4〜5㎡の占有面積を徹底。さらに飼槽や水槽、牛床などを清潔に保つことで、牛が常に落ち着いて横臥・反芻でき、今年に入ってから疾病はほぼゼロである。

## 今後の目標は

### 優良繁殖牛・肥育素牛の増産

飼料給与量は、毎日配合飼料と粗飼料の給与量を計測している。特に粗飼料については意識して給与しており、出荷前にはチモシーとヘイキューブを合わせて1日4kg以上食べ込ませ込むことを徹底している。

今後は、現在の素牛生産技術の向上をさらに図りながら、優良繁殖牛・肥育素牛の増産を進めることが目標である。

\*裏表紙に用語解説

表2：分娩間隔の違いによる産子数の比較

(24ヵ月齢=2歳で初産分娩した後の分娩間隔が、12ヵ月と13.5ヵ月の場合)

分娩間隔	初産	2産	3産	4産	5産	6産	7産	8産	9産
12ヵ月(1年1産)	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳
13.5ヵ月(全国平均)	2.0歳	3.1歳	4.3歳	5.4歳	6.5歳	7.6歳	8.8歳	9.9歳	-

●分娩間隔12ヵ月の場合(1年1産)：1+(120-24)÷12ヵ月=9頭

●分娩間隔13.5ヵ月の場合(全国平均)：1+(120-24)÷13.5ヵ月=8.1頭

※1は24ヵ月齢時の1産目、(120-24)は1産終了時の24ヵ月齢から10歳時の120ヵ月齢までの間を示す

**Point!**

分娩間隔が1.5ヵ月違うと、10歳まで繁殖牛として供用した場合、0.9頭の産子数差となる

表3：農場の2009年の成績

	当農場	平均成績	差
分娩間隔	337日	410日	73日
子牛の事故率(死産・淘汰)	1.6%	3.6%	2.0%
分娩時の事故率(死産・流産)	1.1%	2.1%	1.0%

※子牛と分娩時の事故率は全農調査による

表1：1年1産ができない原因

発情発見上の問題	<p><b>【牛側の要因】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鈍性発情や未発情</li> <li>⇒栄養レベルの不適や卵巣機能障害などが原因</li> </ul> <p><b>【人間側の要因】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発情の見逃し</li> <li>⇒飼養頭数の増加、発情発見に費やす時間の不足、夜間の観察の困難さが原因</li> </ul>
	<p><b>【牛側の要因】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボディコンディションの不適</li> <li>・栄養障害(ビタミン、ミネラル不足など)</li> <li>・生殖器の疾病や異常(子宮内膜炎など)</li> <li>・ストレス(不適切な飼養管理など)</li> </ul> <p><b>【人間側の要因】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人工授精の不適</li> <li>⇒不適期での人工授精の実施などが原因</li> </ul>

**飼養管理の工夫**



牛用代用乳の追加給与状況(追い乳)



同居しながら、子牛のみが通過できる柵を設け、母牛と別飼いする



牛がゆったりと寝て反芻できる十分な飼養スペース



分娩2ヵ月前の牛は角を赤く塗り、増し餌(2kg頭/日)を徹底する